

事務事業及び予算の執行状況

(令和6年度分「一部、令和7年度分を含む」)

静岡県立浜松みをつくし特別支援学校

目 次

1	事務事業の概要	1
2	事務執行の根拠法令調	15
3	学校施設の概要	16
4	在籍生徒調	18
5	入学志願者及び入学者数調	20
6	卒業生の動向調	21
7	生徒の状況	22
8	特別支援学校における生産物売払調	24
9	預金調	25
10	郵券等受払調	26
11	材料品受払調	26
12	委託料等歳出予算執行状況説別集計表	27
13	委託料に関する調	28
14	負担金支出調	31
15	公有財産調	32
16	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	33
17	行政財産貸付・使用許可調	34
18	主要備品調	35
19	職員調	36
20	職員の年齢調	40
21	健康管理	41

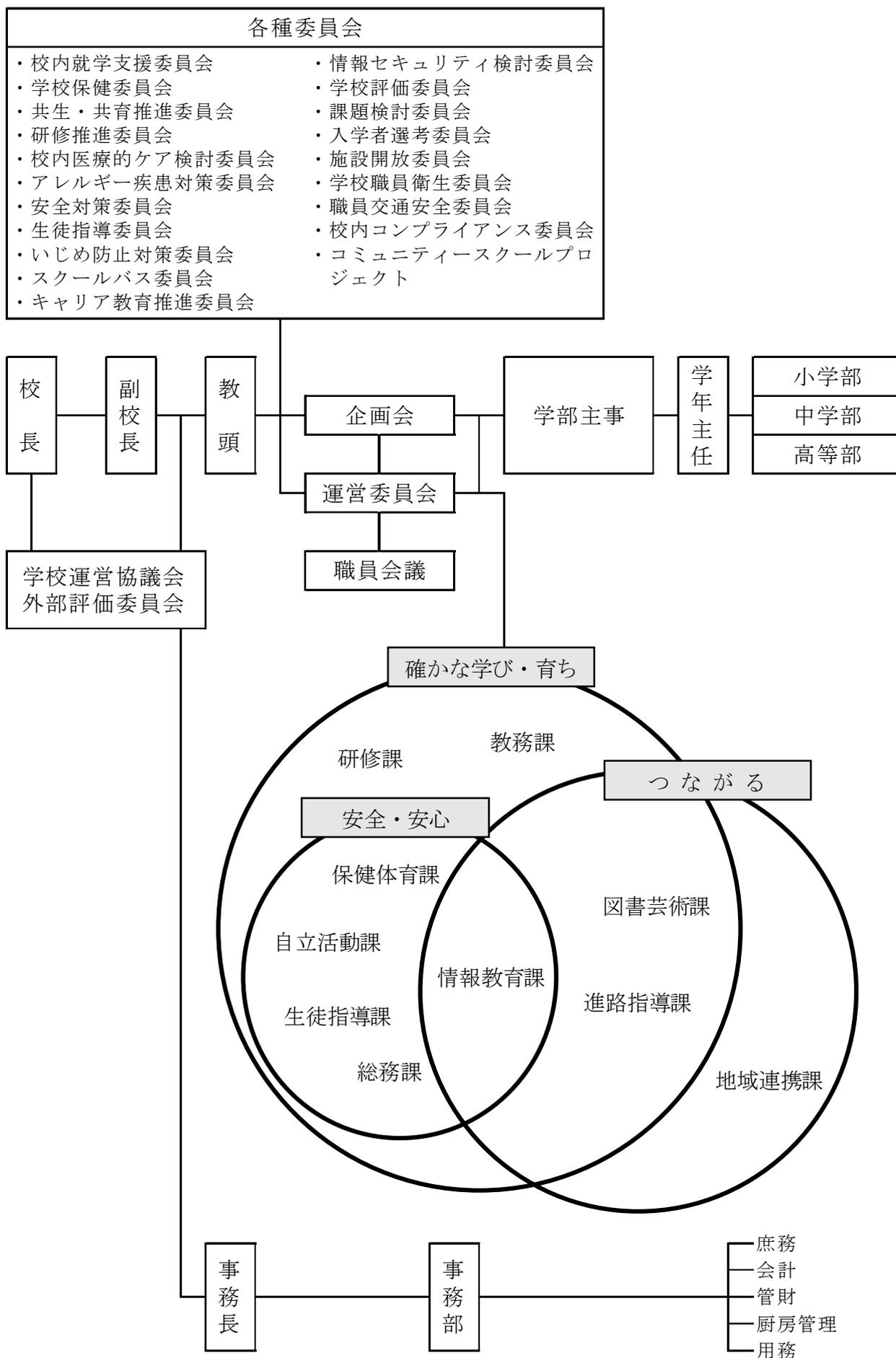
事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

平成29年9月5日	教育委員会定例会にて浜松地区特別支援学校（仮称）の敷地を気賀高等学校跡地にすることを決定し報告
平成30年7月1日	浜松地区特別支援学校（仮称）設置検討委員会を設置
令和元年10月11日	浜松地区特別支援学校（仮称）建設工事着工
令和2年3月18日	県議会にて静岡県立浜松みをつくし特別支援学校として校名決定
令和2年4月1日	設置準備委員会を静岡県立浜北特別支援学校に設置
令和2年11月4日	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校校章決定
令和3年3月10日	校舎建設工事完了 改修：南北棟、体育館 改築：昇降口兼厨房棟 新築：南エレベータ棟、プール、バス昇降所
令和3年4月1日	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校開校
令和3年7月	静岡県教弘教育活動奨励賞
令和4年11月	静岡県学校保健会学校環境衛生活動優良学校として表彰

(2) 組織図



2 目指す学校像

(1) 教育目標

「共に学び 共に育ち 共に夢をつかむ」

育ちの根底に夢があることからこそ主体的な学びが保障される。児童生徒が、様々な学びにより確実に育つことで自ら未来を拓く人を育てる。

児童生徒はもとより、保護者（家族）、地域、教職員にとって夢を育むことができる学校を目指す。

「夢」⇒こんな自分になりたいという将来像にとどまらず、将来や今やりたいこと、明日への希望や意欲など幅広くとらえ、一人一人の思い（選択）を含めた多様な生き方や価値観をもつ人々を大切にできる学校

「共」⇒児童生徒間はもちろん、教職員や学校、保護者・家族と、地域と、関係機関と一諸に夢を見て、一緒に成長している学校

「学び・育ち」⇒様々な主体的な学びによって、確実な育ちがある学校

*教育目標の実現を目指す上で、学校にかかわるすべての人たち（児童生徒・保護者・教職員・地域社会の方々）の「ウェルビーイング」を大切にしていく。

(2) 目指す学校像

- ・確かな学び・育ちがある学校
- ・安全で安心な生活ができる学校
- ・地域・社会とつながる学校

(3) 目標具現化の柱「夢を実現するために」

ア【確かな学び・育ちがある学校】

- ・児童生徒一人一人の「夢」を大切に、確かな成長を促し、発達を支える教育の実現

イ【安全で安心な生活ができる学校】

- ・安全が保証され、誰もが安心して「夢」に向かって進むことができる学校づくりの推進

ウ【地域・社会とつながる学校】

- ・誰もが「夢」を実現できる共生社会を目指して、地域・社会とつながり、児童生徒の自立と社会参加に向けた取組をすすめる学校作りの推進

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

A：十分目標を達成できた B：おおむね目標を達成できた C：あまり目標を達成できなかった

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	主体的に学びあうことで深い学びを実現し、自己決定力をはぐくむための授業実践	・教員各自が研修によって、全ての授業に対して授業改善を繰り返した。	・教員各自が研修によって、全ての授業に対して授業改善を繰り返した。	A	・各学部や分掌での研修を受けて、学習集団をいかした授業改善に取り組んでいる。学習指導要領や自立活動指導画、個別の指導計画に基づいた授業実践を今後も進めていく。
	地域とつながることによる自立と社会参加に向	・地域貢献につながる地域を巻き込んだ授業	・地域貢献につながる地域を巻き込んだ授業	A	・みをつくしサポーターをはじめとした地域資源を活用した授業実践を行うことができて

	けた学校教育力の向上	(活動)を実践し、「みをつくシート」に反映した。	(活動)を実践し、「みをつくシート」に反映した。		いる。みをつくシートの作成は順調に進んでいるので、来年度も日々の実践を反映させながら、完成を目指したい。
	キャリア発達を促す一貫した教育課程を軸にした教育活動の充実	・保護者が自分の子どもの将来の姿をイメージしたキャリアパスポートの取り組み等、今できることに家庭も取り組んだ。	・保護者が自分の子どもの将来の姿をイメージしたキャリアパスポートの取り組み等、今できることに家庭も取り組んだ。	A	・面談などでキャリアパスポートについて保護者と共有し、将来の姿に向かって今の目標や今できることについて、話し合いを行ってきた。家庭でのキャリアパスポートも2年目となり、保護者の意識も高まってきたのではないかと思います。
イ	子供の人権を守る取組の推進	・全教員が児童生徒の良さに視点を置いた指導を常に実施した。	・全教員が児童生徒の良さに視点を置いた指導を常に実施した。	A	・人権研修をはじめとした研修や話し合いの機会を生かし、全教員が児童生徒の良さに視点を置いた指導を行った。今後も研修の有無にかかわらず児童生徒、教職員同士、さらには保護者に対しても日々のコミュニケーションを大切にして、自他の生き方や価値観を大切にする倫理観をもった教職員集団を目指していく。
	児童生徒が自他の命を守ることのできるための教育の推進	・児童生徒が、様々な命の大切さについて考えた行動をした。	・児童生徒が、様々な命の大切さについて考えた行動をした。	A	・児童生徒が自分自身や友達、先生、自分が使っているものなどに興味関心や感謝の気持ちをもつことができるよう指導を行ってきた。指導が児童生徒の行動に直結しない場面もあったが、子どもの行動や言動は背後にある心理的、環境的要因も大きく影響している。児童生徒理解と指導を並行して行っていきたい。
	事故や災害等の学校安全に対する予防、準備、学校再開計画の体制の準備	・全教職員と保護者が有事の際のイメージをもち、児童生徒のために今必要だと思う行動を起こした。	・全教職員と保護者が有事の際のイメージをもち、児童生徒のために今必要だと思う行動を起こした。	A	・様々な災害や危機発生に備え、訓練やマニュアルの見直しを行うことができた。家庭への呼びかけや意識改革も進んできた。しかし、夏の南海トラフ注意情報のようにいつ何時何が起こるかわからない状態は変わらないため、今できる最善の備えを常時心掛ける意識を持ち続けたい。
ウ	居住地(学区)での児童生徒の共生を目指した体制づくり	・本校の良さや指導・支援について外部へ伝えた。	・本校の良さや指導・支援について外部へ伝えることが十分でなかった。	B	・学校公開では、入学を検討している保護者及び関係機関の職員が2日間で173人参加。ほぼ全員が学校紹介VTRを視聴し、アンケートでは、学校の教育目標や各学部の目標や取り組みがわかったと回答

					<p>し、特別支援教育への理解を深めることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品展示では、外部での作品展示を10箇所実施。HPに児童生徒の作品掲載コーナーを作り、3回更新した ・特別支援教育に関する情報提供や方法等に課題があった。
	地域のなかで共に学び、共に生活できる「共生・共育」の推進	・互いが「もっとやりたい。」と思える共同学習を実施した。	・互いが「もっとやりたい。」と思える共同学習を実施した。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・開校4年目となり、学校間交流の形や時期が定まり、交流の内容も充実してきた。学校所在地、居住地での交流を着実にいき、共生社会へ繋げていきたい。

(2) 令和7年度 of 取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア①	学び合いの中で気付き分かってできる授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・各種研修の充実 ・発達段階や障害特性、指導の系統性等の根拠に裏付けられた授業実践 ・一人一人のコミュニケーション方法の拡充 ・ICT機器の効果的な活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が、様々な研修を通して、授業改善に取り組む。 ・全教員が、みをつくシートや星本などを有効に活用し、授業づくりに生かす。 ・全教員が、児童生徒の思い等の表出を広げる関わりをする。 ・全教員が、ICT機器を活用することで、児童生徒の学びの質の向上を目指す。 	研修課 教務課 自立活動課 情報教育課
ア②	豊かでしなやかな心と健やかな体を育む取組の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導や食育、体育等の児童生徒の心や体への理解や成長を促す取組の推進 ・多様な他者との関わりの中で学ぶ機会の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が、保健指導や食育、体育等の取り組みを通して、児童生徒の心や体への興味関心の広がりや成長を促す。 ・全教員が、多様な他者とのかかわりを意識した教育活動を行う。 	保健体育課 生徒指導課 総務課
ア③	今を大切に、将来の夢に向かって進むキャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の「好き」や「得意」を見つけ、広げ、家庭と共有する ・12年間や将来の生活を見通した、家庭と連携したキャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が、児童生徒の「好き」や「得意」を見つけ、広げ、伸ばすかかわりをする。 ・児童生徒を担当する教員が、キャリアパスポートや懇談会、面談等を通して、12年間の見通しや将来の生活について保護者と話しをする。 	進路指導課 保健体育課 図書芸術課 教務課
イ①	事故や災害等への未然防止と対応力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・健康及び安全に配慮した環境整備やヒヤリハットの共有等、未然防止の取組の充実 ・実行性のある各種マニュアルの活用と改善 ・事務部と各学部、各分掌との連携 ・児童生徒が自他の命を大切に安全教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が、学校環境を整備したり、ヒヤリハットを自分ごととして捉えたりするなどして、事故等に対する未然防止に取り組む。 ・全教職員が、発災時等に自分の役割を理解し、動くことができる。 ・担当事務職員が、安全な環境につながる施設や備品の整備を教員と一緒に進める。 ・全教員が、児童生徒の自他の命を守る行動がとれる力を育てる。 	保健体育課 生徒指導課 総務課 事務部

イ ②	誰もが安心して生活できる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒にとってわかりやすく居心地の良い環境づくり ・発達支持的生徒指導の充実 ・「働きがい」と「働きやすさ」を両立した職場環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が、視覚支援や構造化、クールダウン室の活用など、児童生徒が安心して過ごせる関わりや環境整備を行う。 ・全教員が、励ましや称賛、対話等を大切にしながら児童生徒と関わる。 ・全教職員が、自分の所属チームが「認め合い、支え合い、高め合うチーム」となっていると感じる。 	各学部 自立活動課 生徒指導課 情報教育課 事務部 学校職員衛生委員会
ウ ①	共生社会の礎を築く「共生・共育」の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動の充実 ・本校の教育活動の発信による理解啓発の促進 ・センター的機能の発揮 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が、多様な交流活動をとおして、児童生徒の生き生きとした姿を引き出す。 ・全教員が、HP や販売会、作品展示など様々な機会を通して、児童生徒や学校について外部に発信する意識をもつ。 ・全コーディネーターが、センター的機能を求める相手のニーズに応じて、的確な助言を行う。 	各学部 図書芸術課 情報教育課 地域連携課 コーディネーター
ウ ②	自立と社会参加に向けた地域社会との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会による学校支援体制の充実 ・地域社会の人的・物的資源の活用 ・効果的な関係機関等との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員が、教育活動を考える際に、みをつくしサポーター等の地域社会の人的・物的資源の活用を検討する。 ・全教員が、医療や福祉、行政、労働等の関係機関と連携して得た児童生徒の情報を、学部や学年間で共有しながら教育活動に取り組む。 	学校運営協議会 地域連携課 進路指導課

4 監査対象期間における特色ある取組

取組概要	成果及び課題
<p>1 安全で安心な学校体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練や引き渡し訓練、交通安全教室、教員を対象とした不審者対応訓練を実施して防災・防犯時の対応を教職員、児童生徒及び保護者で共有する ・学校再開計画の体制を整備する ・励ましや称賛、対話等を大切にしながら児童生徒と関わる 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や火災における基本的な避難経路や交通安全、マナーについて児童生徒職員で確認した。様々な災害を想定して、主体的に考えて訓練に取り組んでいく中で、より実効性のある危機管理マニュアルへの内容改善を図っている。 ・危機管理マニュアルを活用して、発災から平常に向けての動きや役割などの体制について検討、課題の洗い出しを図っている。 ・保護者と連携し、児童生徒の通学時の避難場所の確認を行った。 ・児童生徒の望ましい行動、活躍できる場について話し合う機会の定期的な設定や人権チェックなどにより、多様性や

<p>指導の実践及び「困った、助けて」が気軽に言える雰囲気づくりの取り組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットや事故報告の事例を共有する ・人権アンケートや不祥事根絶研修、いじめ・体罰アンケートを実施し、一人一人の人権意識を高める ・業務の適正化を図る 	<p>価値観を認め、児童生徒が安心して生活ができる環境づくりへの意識を高めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリハットや怪我が起きた際は、直ちに関係職員が原因分析を行い、根本的な課題を見つけ、学校全体で再発防止につなげている。 ・救急救命法講習の実施。 ・グループワークでの意見交換を通して、不祥事を自分事としてとらえ、不祥事根絶の意識向上につなげている。 ・アンケートや、学年グループで話し合う機会を設定し、人権意識や教職員としての自覚、OJTの意識を高めている。 ・水曜日は17時30分、他の曜日は19時を全教職員の退勤時間としている。 ・会議は一時間以内としている。そのために資料の事前配布、もしくはIT機器を活用することで会議資料をデータで共有し、会議前に共通理解を図っている。 ・保護者面談の希望日や保護者学校アンケート、教職員の学校評価アンケートなどをCOCOOやGoogleフォームを使って実施。集計を素早く行い、意見などの反映につなげている。 ・学部ごと月に一回の定時退勤日を設定している。業務の偏りなどを共有し、対応を学校組織として考えていくこととしている。会議を精選し、OJTの活用や学部、学年間の連携、協力により、ワークライフバランスを図っている。 ・メンタルヘルスの可能性がある職員への対応として職場組織の中で環境の配慮をしてきた。随時、管理職も声を掛け、必要に応じて面接をしている。 ・学期に1回全校クリーンタイムを実施し、運動場他の整備に取り組んだ。
<p>2 学び合いの中で気づき分かってできる授業実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、教職員、保護者等が確かな成長を感じられる教育活動を進める ・児童生徒一人一人の夢を大切にしたキャリア教育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の学び合う場を設定し、分かってできるような活動を用意したり、支援をしたりした。各学部3回以上の研究授業をとおして、授業改善に取り組んだ。 ・キャリアアップシート、キャリアビジョンを活用し、児童生徒の個々の目標設定に生かしている。児童生徒自身が自分の伸ばしたい強み(長所)や克服したい課題を目標に、主体的な学びや自己実現につながるシートなどの活用の仕方を今後検討し、取り組んでいる。

<p>3 地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域と共にある学校」をテーマにした学校運営協議会の実施 ・地域資源の活用として、作業学習の外部講師や資材の提供、作業製品の展示や販売会等を実施 ・地域の人材を教育活動に活用するための、みをつくしサポーターの募集 ・交流及び共同学習の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回全校での児童生徒会活動（代表委員会）の実施。毎週水曜5限目を小中学部、高等部すべて特別活動とし、全学部そろって代表委員会を実施している。高等部生徒会が中心となり、あいさつ運動の計画や学校のきまりなどを全校に伝え、よりよい学校づくりを全児童生徒で実践している。 ・新設校として、今後つながっていききたい、協力をしてもらいたいと地域の方を運営協議委員として依頼し、継続して委員を務めていただいた。 ・学校運営協議会を年間4回開催し、さらに地域に開かれた教育課程について検討している。 ・地域資源の活用をとおして、地域の方に本校や本校の児童生徒、障害のある人たちへの理解啓発ができた。地域からの協力、理解をいただき、作業製品の販売や展示、図工・美術作品展示を実施している。特に、作業学習については、地域の意見を製品づくりに生かそうと各所で製品展示や販売をとおしてアンケートを行っている。また、地域の店舗から製品作りに必要な資材提供の協力を受け、製品作りに生かしている。 ・保護者による読み聞かせボランティアや図書ボランティア、みをつくしサポーターの活用。 ・学校行事やボランティア募集等の便りを回覧板でお知らせしている。 ・教育活動に協力をしてくださる地域の人材（みをつくしサポーター）を募集した。学習発表会の観客、校外学習の付き添いや見守り、美術科音楽科や防災学習におけるゲストティーチャー等の教育活動に協力していただいた。多くの地域の方々が児童生徒と直接関わることで、学校及び特別支援教育に関する理解につながった。 ・気賀小学校、細江中学校、浜松湖北高校との学校間交流を実施した。相手校と交流の目的や意義を確認しながら児童生徒の実態を考慮して交流の方法や時期を工夫したことで、互いの学校にとって学びの多い交流となり、双方の交流目的が達成できた。訪問交流を行っている。本校の学習発表会の作品展示に、交流校の作品を借りて展示し、作品の交流も行っている。 ・小中学部では交流籍を活用した交流及び共同学習を実施し
---	--

た。事前の打ち合わせでは、双方で交流の目的や意義を確認した上で学習内容や支援について話し合うことで双方児童生徒にとって有意義な交流を実施することができた。事後のアンケートでは、交流への満足度も高く、個に応じた目標達成が進んでいる。

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

区分	本 務 職 員											臨 時 ・ 非 常 勤 職 員								合 計				
	教 育 職 員						行 政 職 員					本 務 計	教 諭 (任)	教 諭 (臨)	医 ケア 看護 職員	非 常 勤 講 師	実 習 支 援 指 導 員	非 常 勤 嘱 託 員	非 常 勤 労 務 職 員		学 校 医 ・ 薬 剤 師	健 康 管 理 医	臨 時 等 計	
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	栄 養 教 諭	小 計	事 務 長	主 査	主 任	小 計													
転出		1		15			16		2		2	18	1									1	19	
退職				4			4				0	4	1	7		2		1					11	15
再任用 (転出・退職)							0				0	0										0	0	
転入		1		12			13			2	2	15	2									2	17	
新任				4			4				0	4	7									7	11	
再任用 (新任)				2			2				0	2										0	2	
差引増減	0	0	0	△ 1	0	0	△ 1	0	△ 2	2	0	△ 1	7	△ 7	0	△ 2	0	△ 1	0	0	0	△ 3	△ 4	

(2) 現員数

(令和7年10月31日現在)

区分	本 務 職 員											臨 時 ・ 非 常 勤 職 員								合 計			
	教 育 職 員						行 政 職 員					本 務 者 計	教 諭 (任)	教 諭 (臨)	医 ケア 看護 職員	非 常 勤 講 師	実 習 支 援 指 導 員	非 常 勤 嘱 託 員	非 常 勤 労 務 職 員		学 校 医 ・ 薬 剤 師	健 康 管 理 医	臨 時 等 計
	校 長	副 校 長	教 頭	教 諭	養 護 教 諭	栄 養 教 諭	小 計	事 務 長	主 任	小 計													
男	1	1		33			35		1	1	36	6	2		1			4	4	1	18	54	
女			1	60	2	1	64	1	2	3	67	4	5	2	3	1	4	4	2		25	92	
計	1	1	1	93	2	1	99	1	3	4	103	10	7	2	4	1	4	8	6	1	43	146	

(3) 健康管理について

【令和6年度】

ア 健康管理の推進

(ア) 生活習慣病健診、指定年齢検診、人間ドック等の完全実施を図り、事後措置を徹底させている。また、情報機器作業従事者健診については、全教職員に作業区分調査を行って

一次検診対象者を抽出し、紙面による調査を行った。

- (イ) 職員安全衛生委員会を毎月開催し、健康管理医の意見をいただきながら、教職員の心身の健康状況等について討議している。

イ ストレス、メンタルヘルス関連について

- (ア) 職員安全衛生委員会では、教職員の状況を把握するとともに、必要に応じて個別面談を実施するなど、教職員のメンタルの維持、向上に努めている。
- (イ) 毎週水曜日を定時退勤日と定め、17時30分施錠を実施している。
- (ウ) 公立学校共済組合の職場の健康づくり支援事業を活用し、アロマ体験や、ゼロトレ、生活習慣病予防のための食事に関する講習会を実施した。

【令和7年度】

ア 健康管理の推進

- (ア) 生活習慣病健診、指定年齢検診、人間ドック等の完全実施を図り、事後措置を徹底させている。また、情報機器作業従事者健診については、全教職員に作業区分調査を行って一次検診対象者を抽出し、紙面による調査を行った。
- (イ) 職員安全衛生委員会を毎月開催し、健康管理医の意見をいただきながら、教職員の心身の健康状況等について討議している。

イ ストレス、メンタルヘルス関連について

- (ア) 職員安全衛生委員会では、教職員の状況を把握するとともに、必要に応じて個別面談を実施するなど、教職員のメンタルの維持、向上に努めている。
- (イ) 毎週水曜日を定時退勤日と定め、17時30分施錠を実施している。
- (ウ) 公立学校共済組合の職場の健康づくり支援事業を活用し、アサーショントレーニングに関する講習会を実施した。

(4) 教職員の研修について

研究テーマを「学び合いの中で気づき分かってできる」とする。

目的	内容	成果と課題
授業力の向上	<ul style="list-style-type: none">・各学部（小・中・高）に研究班を組織し、各班で具体的な研究課題を設定して、学校経営と研修の一体化を基に授業実践研究を中心に進める。・学年、グループを超えて授業を見合う機会を設定する。・児童生徒の姿から子どもの見方を考え、教師も学び合えるような事後検討会を実施する。・各研究班で公開授業や授業研究会を行い、校内アドバイザーや外部助言者から指導、助言を受ける。	<ul style="list-style-type: none">・各研究班で公開授業後に事後検討会を行い、「学び合い」「分かってできる」という視点から活発な意見交換ができています。他学年、他学部の授業を参観し、グループを超えて授業を見合い、様々な視点からの意見を聞くことができています。そこで出た意見やアドバイザー、助言者の助言を受け、授業改善ができています。公開授業を行った学年や作業班だけでなく、他の教員が自分の授業に生かせるようにしていく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・PDCA サイクルを活用して授業づくり、授業改善を行う。 ・学習指導要領の内容に即して児童生徒が何を学ぶかが分かるような「解決したい課題や問い」を設定する。 ・児童生徒が学び合えるような学習グループを編成したり、学習活動を設定したりする。 ・他学年・他学部とのつながりを考えた年間指導計画「みをつくシート」の作成や、見直しをする。 ・学習内容から、学習効果を高めるために地域を活用した授業づくりを行ったり、地域の人との協働学習を行ったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画「みをつくシート」の見直し、修正を行った。学年、学部、教科、領域ごと等で見直し、学習指導要領の内容に即しているか、系統立っているか等を確認することができた。しかし、まだ考え方や「みをつくシート」の意味等が学校全体に浸透しきれていない。 ・授業の中で効果的に地域の活用ができています。「みをつくしサポーター」を活用し、学習効果を高めることができています。
<p>専門性の向上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動課、進路指導課などいろいろな分掌の教員が講師を担当し、様々な分野の基礎・基本的な研修を定期的実施する。 ・「研修課だより」を発行し、授業づくりに関する情報の共有を図る。 ・初任者研修、2年次研修、5年次研修、中堅教諭等資質向上研修を推進する。 ・校外研修の報告の場を設定する。 ・日々の支援を見直し、改善する機会として「はごろも『夢』講演会」を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本姿勢や児童生徒、保護者と関わる上で大切なこと、進路指導についてなど、初歩的な研修を行い、参加者の知識を深めることができた。講師を務めた教員も自身のキャリアアップにつながっている。 ・年次研修を受けた教員はそれぞれのキャリアに応じて知識、理解を深めている。 ・校内外の研修で学んだことを多くの教員で共有できるよう、報告する場を設けている。研修に参加した教員だけでなく、報告を聞いた教員も指導に役立てていけるよう工夫していきたい。 ・「はごろも『夢』講演会」では強度行動障害がおこるメカニズム、子どもの見方等についての話を聞いた。多くの教員が、子どもの行動についての考え方を知ったり、理解を深めたりすることができた。日常の指導、支援に生かしていきたい。

危機管理意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・人権について県の伝達研修を実施したり、人権アンケートをとったりして、いじめや体罰防止等に努める。 ・不祥事根絶研修を毎月実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員間での協力体制やありのままの児童生徒の状況を受け入れる体制が整い、学校全体で人権について考えるようになってきた。 ・小グループで話し合う機会を多く持ち、不祥事を自分事として考える職員が増えるよう取り組んでいる。
-----------	---	--

6 防災対策について

本校の立地条件として、校舎の被害想定は低いと考えられるが、ハザードマップより学校敷地内一部の浸水や学校周辺地域の液状化等の被害が想定される。危機管理マニュアルを周知したうえで、有事の際のイメージをもち、児童生徒のために今必要だと思える行動を起こすことができるよう、非常時に避難困難になる児童生徒の具体的な支援、対応について、学年・学部で話し合う機会を設定しつつ、マニュアルの活用により体制を確認、見直しをしていく。安全点検、ヒヤリハットの共有、安全教育の充実に向けた取り組みについては昨年に引き続き行っている。

令和6年8月に発表された初の南海トラフ地震臨時情報については、対応についての課題も見られ検討会を実施した。

今後も実効性のある本部体制や対応等について課題や改善策を検討しながら大規模地震に備えるため総合的な地震対策を整える。合わせて、児童生徒の生命や身体の安全を確保し、施設設備の保全を図るため、次の基本方針で取り組んでいる。

- (1) 校長を総指揮とする安全対策委員会を設置し、防災体制に関する改善を図る。
- (2) 浜松市地域防災計画における本校の役割について確認し、浜松市浜名区危機管理課との連携を密にする。
- (3) P T A（関係委員）との協力、連携体制の整備。
- (4) 非常防災設備の整備や定期点検を行う。
- (5) 児童生徒の生命や身体の安全確保を図るため、状況に応じた避難誘導対策を十分に検討し、日頃から訓練を積み重ねる。児童生徒の在校時における南海トラフ地震の臨時情報、地震発生時等に備えた防災避難訓練を計画的に実施する。

ア 令和6年度の取組

(ア) 目標

- ・全教職員や保護者が危機管理マニュアルを周知したうえで、事故や災害等の学校安全に対する予防、準備、学校再開計画の体制を整備する。

(イ) 実施(予定)内容

実施日	項目【想定】	訓練内容	対象者
4月18日	引き渡し訓練	保護者への引き渡し	児童生徒教職員
5月8日	第1回避難訓練【地震】	避難経路確認、情報伝達 防災講話	児童生徒教職員 高等部生徒

6月7日	第2回避難訓練【地震】	事前予告なし訓練	児童生徒教職員
7月31日	防犯研修	不審者対応訓練	教職員
9月2日	防災学習の日	防災学習・非常食体験	児童生徒教職員
10月22日	第3回避難訓練【火災】	避難経路確認、煙体験	児童生徒教職員
1月20日	第4回避難訓練【水害】	垂直避難	児童生徒教職員

イ 令和7年度の取組

(ア) 目標

- ・全教職員が学校環境を整備したり、ヒヤリ・ハットを自分ごととして捉えたりするなどして、事故等に対する未然防止に取り組む。
- ・全教職員が、発災地頭に自分の役割を理解し、動くことができる。

(イ) 実施(予定)内容

実施日	項目【想定】	訓練内容	対象者
4月17日	引き渡し訓練	保護者への引き渡し	児童生徒教職員
5月2日	第1回避難訓練【地震】	避難経路確認、起震車体験 防災講話	児童生徒教職員 高等部生徒
6月6日	第2回避難訓練【火災】	非常ベル作動想定	児童生徒教職員
7月31日	搜索訓練	不明児童生徒を想定	教職員
9月1日	防災学習の日	防災学習・非常食体験	児童生徒教職員
10月27日	第3回避難訓練【地震】	予告なし訓練	児童生徒教職員
1月19日	第4回避難訓練【水害】	垂直避難	児童生徒教職員

(ウ) 成果と課題

各訓練、研修等において、実際的な想定をもとに避難経路やリスク、役割について各学年、分掌間でリスクコミュニケーションを図る機会を設けたことで、教員間の危機管理意識の向上につながっている。各種訓練では、より具体的にイメージして事前学習や避難誘導を行っている。安全点検では、点検する際の観点を具体的に示している。目視だけの点検に留まらず、打音・振動・負荷・作動等、実効性のある点検により、危険箇所の把握と教育環境の整備と改善に努めている。職員研修として、不明児童生徒を想定した搜索訓練を行った。マニュアルに沿った対応が原則ではあるが、子どもの実態によっては、マニュアル通りではない対応が必要な場合があることや、近隣・広域搜索における役割分担等を確認できた。今後は、明らかになった課題も含め、より具体的な対応について検討していく。

7 学校開放について

地域に開かれた学校づくりの一環として、教育活動に支障のない範囲で学校の施設・設備を地域に開放していく。

年度	施設名	利用日数	利用人員	主な利用内容	利用者負担金 (光熱水費)
令和7年度 (10/31現在)	体育館	26日	315人	スポーツ教室・サッカー フットサル	4,004円
	グラウンド	5日	76人		
	合計	31日	391人		
令和6年度	体育館	42日	958人	スポーツ教室・サッカー フットサル・防災キャンプ	10,191円
	グラウンド	9日	168人		
	合計	51日	1,126人		

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関する こと	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 学校給食法（第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律 いじめ防止対策推進法（第8条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則 特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 特別支援学校高等部学習指導要領
2 学校の管理・運営 に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県立学校処務規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第1条、第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 社会教育法（第43条、第45条、第47条、第48条）

□□□□□

学 校 施 設 の 概 要

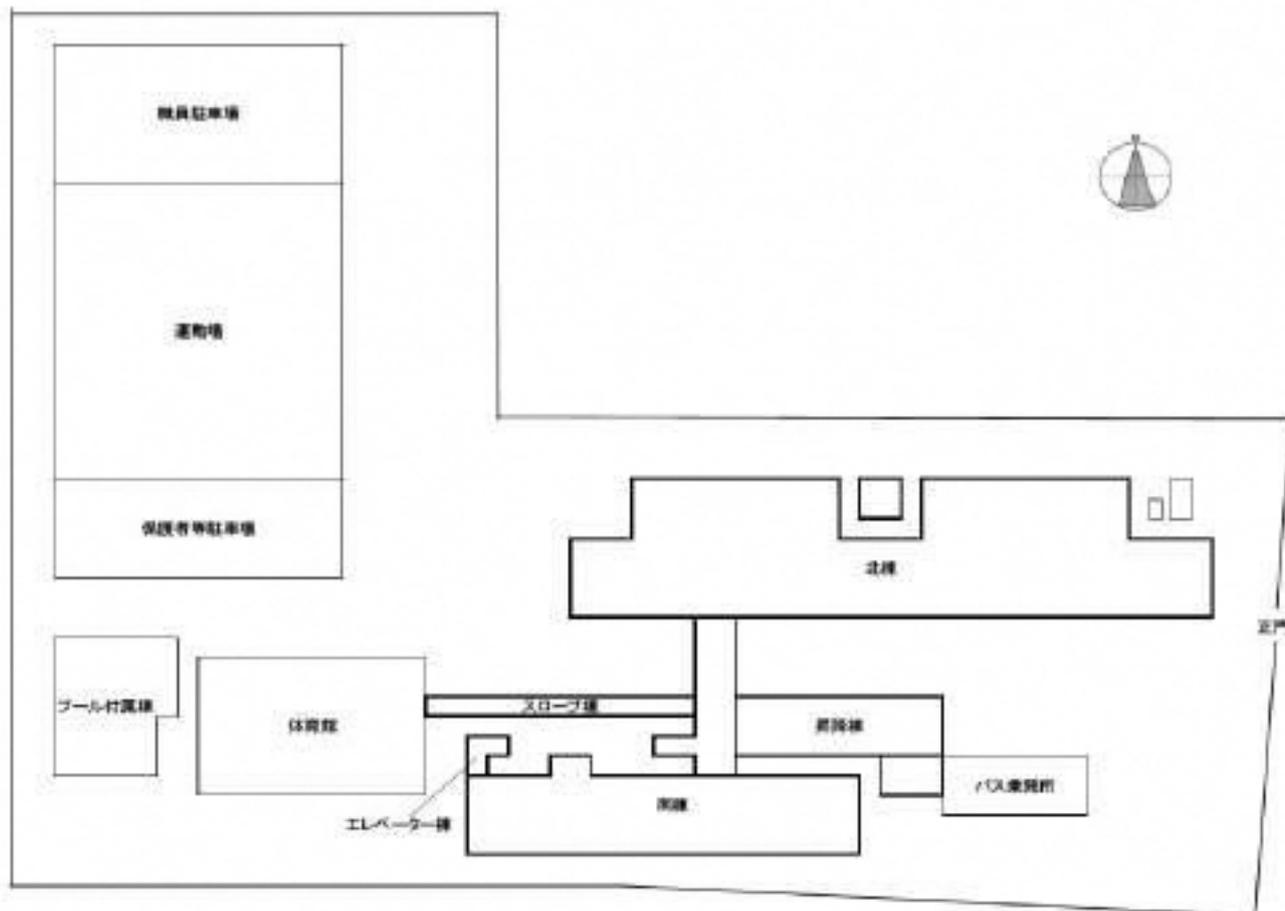
1 面積及び所有区分

(令和7年10月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県有 m ²	国有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民有 m ²	
学 校 敷 地	34,844.32	34,844.32					
内 訳	校舎敷地	10,310.15	10,310.15				
	運動場敷地	10,688.80	10,688.80				
	その他の敷地	13,845.37	13,845.37				
校 舎	建 2,614.56	2,614.56					
	延 9,992.11	9,992.11					
体 育 館	建 1,483.46	1,483.46					
	延 1,494.18	1,494.18					
その他の建物	建 200.51	200.51					
	延 180.24	180.24					
プ ー ル	2 個	2 個					大25m×8m 4 コース 小10m×5m

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	34,844.32 m ²	9,992.11 m ²	10,688.80 m ²
県平均	19,266.88 m ²	6,361.36 m ²	5,302.07 m ²

在籍生徒調

(令和7年10月31日現在)

学年	区分	小学部			中学部			高等部			
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入学者	21	4	25	14	3	17	30	16	11	27
	増加										
	減少										
	現在	21	4	25	14	3	17		16	11	27
2年	入学者	8	3	11	17	6	23	27	17	2	19
	増加								1		1
	減少										
	2年時当初	8	3	11	17	6	23		18	2	20
	増加		1	1							
	減少										
現在	8	4	12	17	6	23		18	2	20	
3年	入学者	13	3	16	4	5	9	48	25	12	37
	増加				1		1		1		1
	減少										
	2年時当初	13	3	16	5	5	10		26	12	38
	増加	1		1					1		1
	減少								3		3
	3年時当初	14	3	17	5	5	10		24	12	36
	増加										
減少											
現在	14	3	17	5	5	10		24	12	36	
4年	入学者	9	2	11							
	増加										
	減少										
	2年時当初	9	2	11							
	増加										
	減少										
	3年時当初	9	2	11							
	増加	1		1							
	減少										
	4年時当初	10	2	12							
増加	3		3								
減少											
現在	13	2	15								

学年	区分	小学部			中学部			高等部				
		男子	女子	計	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	
5年	入学者	18	2	20								
	增加											
	減少											
	2年時当初	18	2	20								
	增加		1	1								
	減少											
	3年時当初	18	3	21								
	增加	1	1	2								
	減少	1		1								
	4年時当初	18	4	22								
	增加	2		2								
	減少	1	1	2								
	5年時当初	19	3	22								
	增加	1		1								
減少	1		1									
現在	19	3	22									
6年	入学者											
	增加	14	3	17								
	減少											
	2年時当初	14	3	17								
	增加											
	減少											
	3年時当初	14	3	17								
	增加	1	1	2								
	減少											
	4年時当初	15	4	19								
	增加		2	2								
	減少											
	5年時当初	15	6	21								
	增加											
減少												
6年時当初	15	6	21									
增加												
減少												
現在	15	6	21									
計		90	22	112	36	14	50	105	58	25	83	

□□□□□

入学志願者及び入学者数調

(高等部)

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科	普通科	普通科
生徒定員(A)		30	48	48	27	30
募集者数(B)		30	48	48	27	30
志願者数	男	22 (0)	33 (0)	26 (0)	17 (0)	16
	女	2 (0)	10 (0)	12 (0)	2 (0)	11
	計(C)	24 (0)	43 (0)	38 (0)	19 (0)	27 (0)
受検者数	男	22 (0)	33 (0)	26 (0)	17 (0)	16
	女	2 (0)	10 (0)	12 (0)	2 (0)	11
	計(D)	24 (0)	43 (0)	38 (0)	19 (0)	27 (0)
合格者数	男	22 (0)	33 (0)	26 (0)	17 (0)	16
	女	2 (0)	10 (0)	12 (0)	2 (0)	11
	計(E)	24 (0)	43 (0)	38 (0)	19 (0)	27 (0)
志願倍率(C)／(B)		0.80	0.90	0.79	0.70	0.90
受検倍率(D)／(B)		0.80	0.90	0.79	0.70	0.90
入学者数	男	22	33	25	17	16
	女	2	10	12	2	11
	計(F)	24	43	37	19	27
充足率(F)／(A)		0.80	0.90	0.77	0.70	0.90

□□□□□

卒業生の動向調

区分		中学部	高等部		合計
			本科	専攻科	
高等学校 (本科)	全日制				0
	定時制				0
	通信制				0
特別支援学校高等部		17			17
その他高等学校等					0
大学等	大学(学部)				0
	短期大学(本科)				0
	大学・短大等の信教育学部等				0
	その他大学等				0
特別支援学校高等部専攻科					0
専修学校(専門課程)					0
専修学校(一般課程)・各種学校					0
公共職業能力開発施設等					0
就 職			11		11
上記以外 ※			36		36
不詳・死亡					0
計(卒業生総計)		17	47	0	64

(再掲) 「上記以外 ※」のうち、社会福祉施設等入所、通所者

区分		中学部	高等部		合計
			本科	専攻科	
児童福祉施設					0
障害者支援施設			36		36
(うち就労系支援事業利用者)			19		19
医療機関					0
計		0	36	0	36

□□□□□

生徒の状況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

市町名	浜松市					合計
生徒数	245					245
構成比%	100%					100%

(2) 通学方法 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

区分	S B	自家用車	徒歩	自転車	公共交通機関	合計
生徒数	137	66	1	4	37	245
構成比%	56.0%	26.9%	0.4%	1.6%	15.1%	100%

(3) 訪問教育の状況 (令和7年10月31日現在) (単位:人)

訪問教員等		市町				計
小・ 中学部	教諭	小学部				
	講師	中学部				
高等部	教諭	高等部				
	講師					
計		計				

2 部(クラブ)の加入状況

(中学部) なし

(高等部) (令和7年10月31日現在) (単位:人)

区分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		1	0		1
男子	1年	1	0	15	16
	2年	5	0	13	18
	3年	1	0	23	24
	計(A)	7		51	58
	構成比	12.1%		87.9%	100%
女子	1年	0	0	11	11
	2年	1	0	1	2
	3年	0	0	12	12
	計(A)	1		24	25
	構成比	4.0%		96.0%	100%
合計	合計(A+B)	8		75	83
	構成比	9.6%		90.4%	100%

3 障害別児童生徒数

(令和7年10月31日現在)

(単位：人)

区 分		1年 (2歳)	2年 (3歳)	3年 (4歳)	4年 (5歳)	5年	6年	合計	学級 数
幼稚園	単一障害							0	
	-								
	-								
	合計	0	0	0	0			0	0
小学部	単一障害	20	9	12	9	12	14	76	15
	重複障害	5	3	5	6	10	7	36	11
	肢体重複							0	
	合計	25	12	17	15	22	21	112	26
中学部	単一障害	14	19	10				43	8
	重複障害	3	4	0				7	5
	肢体重複							0	
	合計	17	23	10				50	13
高等部	単一障害	24	20	33				77	12
	重複障害	3	0	3				6	2
	肢体重複							0	
	合計	27	20	36				83	14

4 起因疾患別児童生徒数

(令和7年10月31日現在)

(単位：人)

区分	□□□	□□□	□□□	□□□	□□□	計
幼稚園						0
小学部	14	74	20	1	3	112
中学部	7	32	10	1	0	50
高等部	28	40	13	2	0	83
訪 問						0
計	49	146	43	4	3	245

□□□□□

特別支援学校における生産物売払調

令和7年度

(令和7年10月31日現在)

		主な生産品目	
令和7年度	なし		
	①売払金額	円	②令和6年度との差額 △ 279,600円
令和6年度	<木工班>	ティッシュボックス、ウッドコースター、魚釣りセット、ペン立て、キーホルダー、脱臭剤、モザイクコースター、小物入れ、マルチトレイ、ウッドイトレイ、マグネットボックス	
	<手工芸班>	メモ帳、小物トレイ、かごバッグ、丸かご、ふたつきかご、四角かご、布付きかごバッグ、ショルダーバッグ、バスボム、小物入れ、コースター	
	<縫製班>	コースター、保冷バッグ、トートバッグ、アームカバー、巾着、ファスナーポーチ、巾着袋、箸袋	
	<レザー班>	コインケース、コースター、コードクリップ、キーホルダー、ストラップ、キーケース	
	<農園芸班>	サツマイモ、切り干し大根、花の苗	
	①売払金額	279,600円	②令和5年度との差額 5,800円
令和5年度	<木工班>	メモスタンド、レンコンコースター、寄木コースター、ティッシュボックスケース、寄木ペン立て、脱臭剤、デザインコースター、小物入れ、寄木トレイ、キーホルダー、モザイクコースター、ペンスタンド	
	<手工芸班>	メモ帳、四角ボックス、リース(大)、リース(小)、コースター、コースター(布)、コースター(紙)、バスボム、マガジンラック、かごバッグ、スクエアバッグ(小)、スクエアバッグ(布付き)、スクエアバッグ(大)、ペーパーホルダー、ガーランド、小物入れ、小物入れ(ビース)ティッシュケース	
	<縫製班>	トートバッグ(小)、トートバッグ(中)、トートバッグ(大)、トートバック、コースター、ファスナーポーチ、ペンケース、ミニ巾着、サコッシュ	
	<レザー班>	ペンケース、コインケース(大)、コインケース(小)、パスケース、ストラップ、ブックバンド、ヘアゴム、十二支マグネット、キーホルダー、マグネット、文庫本カバー、手帳カバー、コースター、コードクリップ、ミニポーチ	
	<農園芸班>	マリーゴールド苗、夏野菜セット、サツマイモ、大根、切り干し大根、花の苗、トウガラシ	
	①売払金額	273,800円	②令和4年度との差額 145,200円

□□□□□

預 金 調

(令和7年10月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 円	摘要
浜松磐田 信用金庫 中川支店	無利息型 普通預金	2108787	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 資金前渡者 池田 昌史	10,000	給与・交際費・ 税払出等
静岡銀行 引佐支店	無利息型 普通預金	0295871	(自振口) 静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 資金前渡者 池田 昌史	0	公共料金等引落
浜松磐田 信用金庫 中川支店	無利息型 普通預金	2108795	静岡県立浜松みをつくし特別支援学校 奨励費 代理受領者 池田 昌史	0	就学奨励費
残高合計				10,000	

□□□□□

郵 券 等 受 払 調

(令和7年10月31日現在)

(単位：枚、円)

区分	種類	令 和 6 年 度						令 和 7 年 度								摘要
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	10円券	118	1,180	100	1,000	58	580	160	1,600			8	80	152	1,520	公務連絡用
	26円券	0	0	19	494	19	494	0	0					0	0	
	84円券	219	18,396			219	18,396	0	0					0	0	
	100円券	48	4,800	100	10,000	21	2,100	127	12,700			2	200	125	12,500	
	110円券	0	0	150	16,500	109	11,990	41	4,510			1	110	40	4,400	
	120円券	90	10,800			40	4,800	50	6,000			1	120	49	5,880	
計		35,176		27,994		38,360		24,810		0		510		24,300		

□□□□□

材 料 品 受 払 調

(令和7年10月31日現在)

区分 品名	令 和 6 年 度						令 和 7 年 度								摘要	
	繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出		差引現在高			
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額		
革	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円
			2	73,600	2	73,600	0	0	208	33,280	208	33,280	0	0		
木材	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円
			577	247,027	577	247,027	0	0	342	143,052	342	143,052	0	0		
布	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円	枚	円
			551	57,403	551	57,403	0	0	281	30,906	281	30,906	0	0		
紙バンド	個	円	個	円	個	円	個	円	個	円	個	円	個	円	個	円
			58	51,788	58	51,788	0	0	43	34,232	43	34,232	0	0		
計		0		429,818		429,818		0		241,470		241,470		0		

□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、令和5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	教育委員会費	教育管理費		92,400	
	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		84,707,540	
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費		13,284,802	
計					67,564,123	98,084,742	0
(14) 工事請負費							
計					7,491,000	0	0
(16) 公有財産購入費							
計					0	0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		915,970	
計					796,400	915,970	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		23,000	
計					20,000	23,000	0
(21) 補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

□□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年10月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						左のうち、令和6年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	42,339,430	
	一般	教育費	学校教育費	健康体育費	6,631,138	
計					48,970,568	0
(14) 工事請負費						
計					0	0
(16) 公有財産購入費						
計					0	0
(17) 備品購入費	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	511,940	
計					511,940	0
(18) 負担金、補助及び交付金	一般	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	43,000	
計					43,000	0
(21) 補償、補填及び賠償金						
計					0	0

委託料に関する調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 機械警備業務	セコム㈱	856,350	666,050		666,050	随契	R3.2.22 ～ R6.9.30	R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.9.30 R6.10.31 小計	(573,650) 15,400 15,400 15,400 15,400 15,400 15,400 92,400	事務室等機械警備(防犯、火災監視)業務	随契1号(少額) R2長期
2	給食業務	㈱いづみ食品	43,722,118	37,382,400	10,076	37,392,476	一般	R5.8.1 ～ R8.7.31	R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.9.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.1.31 R7.2.28 R7.3.31 R7.4.30 小計	(8,307,200) 1,038,752 1,038,752 1,038,752 1,038,752 1,038,752 1,038,752 1,038,752 1,038,752 1,038,752 1,038,752 1,038,752 1,038,752 12,465,024	学校給食調理・配膳業務	R5長期 保存食代増額
3	エレベーター保守点検業務	㈱日立ビルシステム中部支社	2,680,724	2,362,800		2,362,800	随契	R6.4.1 ～ R7.3.31	R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.9.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.1.31 R7.2.28 R7.3.31 R7.4.30 小計	196,900 196,900 196,900 196,900 196,900 196,900 196,900 196,900 196,900 196,900 196,900 196,900 196,900 2,362,800	遠隔監視及び点検調整修理業務	随契2号(不適)
4	可燃物収集運搬処分業務	㈱西遠デトリ	収集・運搬料 5,500/回 処分手数料 12.54/kg	収集・運搬料 5,280/回 処分手数料 12.54/kg		収集・運搬料 5,280/回 処分手数料 12.54/kg	指名	R6.4.8 ～ R7.3.31	R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.9.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.1.31 R7.2.28 R7.3.31 R7.4.30 小計	96,104 129,752 120,572 121,839 41,549 120,057 140,023 123,544 121,086 111,266 109,272 124,986 1,360,050	可燃物収集運搬処分業務	単価契約
5	段差解消機保守点検業務	㈱インガミ	836,000	836,000		836,000	随契	R6.4.8 ～ R7.3.31	R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.9.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.1.31 R7.2.28 R7.3.31 R7.4.30 小計	66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 110,000 66,000 836,000	保守及び建築基準法第12条点検業務	随契1号(少額)
6	通学バス運行管理業務	遠州鉄道㈱	244,695,528	242,418,000		242,418,000	一般	R6.4.1 ～ R9.3.31	R6.5.31 R6.6.28 R6.7.31 R6.8.30 R6.9.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.1.31 R7.2.28 R7.3.31 R7.4.30 小計	(0) 6,733,826 6,733,826 6,733,826 6,733,826 6,733,826 6,733,826 6,733,826 6,733,826 6,733,826 6,733,826 6,733,826 6,733,826 80,805,912	通学・校外活動の送迎業務	R6長期
7	ｸﾞﾘｽﾄﾗｯﾌﾟ 清掃及び産廃収集運搬処分業務	㈱大洋サービス	36,850	36,850		36,850	随契	R6.6.19 ～ R6.8.30	R6.7.12	36,850	ｸﾞﾘｽﾄﾗｯﾌﾟ 清掃及び産廃収集運搬処分業務	随契1号(少額)

□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
8	グリスアップ清掃及び産廃収集運搬処分業務	㈱太洋サービス	36,850	36,850		36,850	随契	R6.10.2 R6.12.27	R6.11.29	36,850	グリスアップ清掃及び産廃収集運搬処分業務	随契1号(少額)
9	産業廃棄物収集運搬処分業務	㈱リサイクルクリーン	52,006	52,006		52,006	随契	R6.11.18 R7.3.31	R7.1.20	52,006	廃プラ他(3.5㎡)収集運搬処分	随契1号(少額)
10	グリスアップ清掃及び産廃収集運搬処分業務	㈱太洋サービス	36,850	36,850		36,850	随契	R7.2.5 R7.3.31	R7.3.31	36,850	グリスアップ清掃及び産廃等収集運搬処分業務	随契1号(少額)
事務関係計		10件								98,084,742		
合計		10件								98,084,742		
参考1	消防用設備等保守点検業務	静岡県消防設備保守点検業協同組合		18,810,000	▲16,500	18,793,500		R6.4.1 R7.3.31			消防用設備等保守点検業務	浜松湖北高
参考2	自家用電気工作物保安管理業務	遠鉄アシスト㈱		4,755,960	356,741	5,112,701		R6.4.1 R7.3.31			電気工作物保安管理業務	浜松城北工業高
参考3	建築物環境衛生管理業務	㈱シービーエム		7,773,260		7,773,260		R6.4.1 R7.3.31			建築物環境衛生管理業務	浜松西高
参考4	プール浄化装置保守点検業務	清化工業㈱		998,800	▲17,050	981,750		R6.4.8 R6.12.27			プール浄化装置保守点検業務	浜松東高
参考5	機械警備業務	セコム㈱		14,256,000		14,256,000		R6.10.1 R11.9.30			事務室等機械警備(防犯、火災監視)業務	浜松工業高
合計		5件										

□□□□□

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)
(令和7年10月31日現在)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘 要
				当 初 額	変 更 増減額	計						
1	(事務関係) 給食業務	㈱いづみ食品	43,722,118	37,382,400	21,692	37,404,092	一般	R5.8.1) R8.7.31	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31 R7.8.29 R7.9.30 R7.10.31 小計	(20,772,224) 1,039,489 1,039,489 1,039,489 1,039,489 1,039,489 6,236,934	学校給食調理・ 配膳業務	R5長期 保存食代増 額
2	通学バス運行管 理業務	遠州鉄道 ㈱	244,695,528	242,418,000		242,418,000	一般	R6.4.1) R9.3.31	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31 R7.8.29 R7.9.30 R7.10.31 小計	(80,805,912) 6,733,826 6,733,826 6,733,826 6,733,826 6,733,826 40,402,956	通学・校外活動 の送迎業務	R6長期
3	エレベーター保 守点検業務	㈱日立ビル システム中 部支社	2,680,724	2,362,800		2,362,800	随契	R7.4.1) R8.3.31	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31 R7.8.29 R7.9.30 R7.10.31 小計	196,900 196,900 196,900 196,900 196,900 196,900 1,181,400	遠隔監視及び点 検調整修理業務	随契2号 (不適)
4	段差解消機保守 点検業務	㈱インガミ	836,000	836,000		836,000	随契	R7.4.8) R8.3.31	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31 R7.8.29 R7.9.30 R7.10.31 小計	66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 66,000 396,000	保守及び建築基 準法第12条点検 業務	随契1号 (少額)
5	可燃物収集運搬 処分業務	㈱西遠デト リー	収集・運搬料 6,380/回 処分手数料 12.54/kg	収集・運搬料 6,050/回 処分手数料 12.54/kg		収集・運搬料 6,050/回 処分手数料 12.54/kg	指名	R7.4.8) R8.3.31	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31 R7.8.29 R7.9.30 R7.10.31 小計	103,315 137,302 143,452 129,057 52,964 137,138 703,228	可燃物収集運搬 処分業務	単価契約
6	厨房がリストラッ 清掃及び産廃取 集運搬処分業務	㈱太洋サー ビス	50,050	50,050		50,050	随契	R7.6.16) R7.7.31	R7.7.31	50,050	がリストラッ 清掃 及び産廃等収集 運搬処分業務	随契1号 (少額)
7	厨房がリストラッ 清掃及び産廃取 集運搬処分業務	㈱太洋サー ビス	36,850	36,850		36,850	随契	R7.10.15) R7.12.26			がリストラッ 清掃 及び産廃等収集 運搬処分業務	随契1号 (少額)
事務関係計		7 件								48,970,568		
合 計		7 件								48,970,568		
参 考 1	機械警備業務	セコム㈱		14,256,000		14,256,000		R6.10.1) R11.9.30			事務室等機械警 備(防犯、火災 監視)業務	浜松工業高
参 考 2	消防用設備等保 守点検業務	静岡県消防設 備保守点検業 協同組合		19,250,000		19,250,000		R7.4.1) R8.3.31			消防用設備等保 守点検業務	浜松湖北高
参 考 3	自家用電気工作 物保安管理業務	遠鉄アシス ト㈱		5,212,680		5,212,680		R7.4.1) R8.3.31			電気工作物保安 管理業務	浜松城北工 業高
参 考 4	建築物環境衛生 管理業務	㈱シービー エム		8,401,470		8,401,470		R7.4.1) R8.3.31			建築物環境衛生 管理業務	浜松西高
参 考 5	プール浄化装置 保守点検業務	清化工業㈱		995,500	▲37,400	958,100		R7.4.10) R7.12.26			プール浄化装置 保守点検業務	浜松東高
合 計		5 件										

□□□□□

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国特別支援学校知的障害教育校長会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会	会則	学校の管理運営に関する調査研究	円 15,000	R6.7.17
2	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会	規則	教育の充実・改善の推進及び教育上の調査研究	5,000	R6.7.26
3	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会四国大会参加費	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会四国大会実行委員長	開催要項	学校経営等に関する情報共有及び特別支援教育の充実	3,000	R6.7.30
計		3 件			23,000	

□□□□□

負担金支出調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会埼玉大会参加費	全国特別支援学校知的障害教育校長研究大会埼玉大会実行委員長	開催要項	学校経営等に関する情報共有及び特別支援教育の充実	円 3,000	R7.7.15
2	全国特別支援学校知的障害教育校長会費	全国特別支援学校知的障害教育校長会	会則	学校の管理運営に関する調査研究	15,000	R7.7.24
3	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会費	東海地区特別支援学校知的障害教育校長会	規則	教育の充実・改善の推進及び教育上の調査研究	5,000	R7.7.31
4	静岡県強度行動障害支援者養成研修受講料	静岡県	開催要項	強度行動障害支援者養成の基礎・実践研修	20,000	R7.9.16
計		4 件			43,000	

□□□□□

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区分	令和6年3月31日現在		増		減		令和7年3月31日現在		摘要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産		千円 1,407,252		千円 0		千円 55,922		千円 1,351,330	
土地	m ² 34,844.32	664,957					m ² 34,844.32	664,957	
建物	m ² 4,298.53 11,666.53	434,730				37,281	m ² 4,298.53 11,666.53	397,449	
工作物	個 100	307,565				18,641	個 100	288,924	
公有財産に 準ずるもの		154		0		0		154	
電話加入権	件 8	154					件 8	154	

令和7年度中 増減なし

□□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	(契約額の年度別内訳)						
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
長期継続契約	機械警備業務	機械警備業務 (契約日) 令和3年2月8日	666,050	円 (浜北特支執行) 19,250	円 184,800	円 184,800	円 184,800	円 92,400	円	円
	給食業務	給食業務 (契約日) 令和5年7月19日	37,404,092				8,307,200	12,465,024	12,473,868	4,158,000
	通学バス 輸送業務	通学バス輸送 5台 (契約日) 令和6年4月1日	242,418,000					80,805,912	80,805,912	80,806,176

□□□□□

行政財産貸付・使用許可願

(令和7年10月31日現在)

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量 又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用 許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	学校敷地	浜松市浜名区細江町広岡1	学校敷地	学校敷地	6本	1,500	9,000 ^円	R3.4.1) R8.3.31	中部電力パワーグリッド(株)浜北営業所配電建設グループ長	電柱4本 支線2本
2	土地	学校敷地	浜松市浜名区細江町広岡1	学校敷地	学校敷地	1.0 m ²	—	免除	R3.4.1) R8.3.31	浜松市長	道路照明灯敷地
3	土地	学校敷地	浜松市浜名区細江町広岡1	学校敷地	学校敷地	213.20 m ²	—	免除	R3.4.1) R8.3.31	浜松市長	水路敷地
4	土地	学校敷地	浜松市浜名区細江町広岡1	学校敷地	学校敷地	52.59 m ²	—	免除	R3.4.1) R8.3.31	浜松市長	道路敷地
合計								9,000			

□□□□□

主 要 備 品 調

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	区 分		品 名 ・ 規 格	利 用 状 況	購入年月	購入金額 (円)
	大・中	小				
1	1-13	その他の厨房器具	真空冷却機 三浦工業 CMJ-20QE	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	3,168,330
2	2-1	パーソナルコンピュータ(一式)	ノートパソコン・サーバー他 富士通 LIFEBOOK A5510/E	月1日(年間10日) 生活単元学習等	R 3. 3	2,535,940
3	1-13	その他の厨房器具	コンビオーブン アイホー ACO-102ES	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	1,985,467
4	1-13	その他の厨房器具	ラックコンバタイプ自動食器洗浄機 日本洗浄機 SDR310GSH	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	1,967,933
5	10-7	鍵盤楽器	グランドピアノ ヤマハ C5	学期3日(年間10日)式典、行事用	H21. 3	1,587,547
6	1-13	その他の厨房器具	電気式食器消毒保管機 アイホー EW-2004N特	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	1,479,192
7	1-13	その他の厨房器具	ステンレス製回転釜 桐山工業 KIFSD2X-30	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	1,384,526
8	1-13	その他の厨房器具	ステンレス製回転釜 桐山工業 KIFSD2X-30	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	1,384,526
9	1-13	その他の厨房器具	電気式食器消毒保管機 アイホー EW-1504N特	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	1,104,686
10	1-13	その他の厨房器具	3槽シンク アイホー S3-207BDB	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	816,310
11	1-13	冷蔵(凍)庫	パススルー冷蔵庫 ホザキ電機 HR-120CA-ML-4G4G	毎日(年間365日) 食材等保管用	R 3. 3	805,640
12	1-13	その他の厨房器具	下処理用3槽シンク アイホー S3-187BDVB	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	788,436
13	1-13	その他の厨房器具	ガス式立体炊飯器 アイホー RMG-154R	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	728,970
14	1-13	その他の厨房器具	ガス式立体炊飯器 アイホー RMG-154R	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	728,970
15	1-4	移動書庫	63型クランク オカムラ	毎日(年間365日) 書類保管用	R 3. 3	712,800
16	1-13	その他の厨房器具	器具消毒保管機 アイホー EWK-1004N特	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	706,321
17	1-13	その他の厨房器具	器具消毒保管機 アイホー EMK-1004N	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	612,568
18	1-13	その他の厨房器具	包丁・まな板消毒保管機 アイホー ES-254N特	給食実施日(年間193日)調理用	R 3. 3	553,322
19	7-1	除草用機器	草刈機乗用 やまびこ RM831/B	年4回(年間12日) グラウンド除草用	R 4. 1	543,840
20	1-7	製本機	丁合機 デュプロ DFC-100N II	週1日(年間40日) 授業、会議資料用	R 3. 3	495,000

□□□□

職 員 調

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤続年数	摘 要
1	校長	池田 昌史	総 括	□□□	□年 □月	□□□
2	副校長	磯部 幸宏	総 括	□□□	□年 □月	□□□
3	教頭	池上 元子	総 括	□□□	□年 □月	□□□
4	事務長	袴田 早苗	事務総括	□□□	□年 □月	□□□
5	教諭	柿澤 あかね	高等部	□□□	□年 □月	□□□
6	教諭	山田 けい子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
7	教諭	鈴木 満彦	中学部	□□□	□年 □月	□□□
8	教諭	堀野 真吾	高等部	□□□	□年 □月	□□□
9	教諭	久野 香織	中学部	□□□	□年 □月	□□□
10	教諭	鈴木 康予	高等部	□□□	□年 □月	□□□
11	教諭	土屋 彰子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
12	教諭	寺田 結佳	高等部	□□□	□年 □月	□□□
13	教諭	藤田 京子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
14	教諭	山田 浩	中学部	□□□	□年 □月	□□□
15	教諭	泉澤 俊恵	小学部	□□□	□年 □月	□□□
16	教諭	今井 真砂美	高等部	□□□	□年 □月	□□□
17	教諭	竹内 啓司	中学部	□□□	□年 □月	□□□
18	教諭	伊藤 昌明	小学部	□□□	□年 □月	□□□
19	教諭	榊原 あゆみ	中学部	□□□	□年 □月	□□□
20	教諭	田中 依子	中学部	□□□	□年 □月	□□□
21	教諭	村田 典加	小学部	□□□	□年 □月	□□□
22	教諭	西尾 洋子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
23	教諭	山本 敏士	小学部	□□□	□年 □月	□□□
24	教諭	齋藤 香	中学部	□□□	□年 □月	□□□
25	教諭	山本 真理子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
26	教諭	大ノ木 一雅	高等部	□□□	□年 □月	□□□
27	教諭	中嶋 祥子	中学部	□□□	□年 □月	□□□
28	教諭	福田 賢太	中学部	□□□	□年 □月	□□□
29	教諭	松本 靖正	高等部	□□□	□年 □月	□□□
30	教諭	中川 千絵子	高等部	□□□	□年 □月	□□□
31	教諭	大石 恵子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
32	教諭	溝本 仁美	小学部	□□□	□年 □月	□□□
33	教諭	田中 祥恵	高等部	□□□	□年 □月	□□□
34	教諭	大場 裕史	高等部	□□□	□年 □月	□□□
35	教諭	中村 剛	高等部	□□□	□年 □月	□□□
36	教諭	宮本 仁美	小学部	□□□	□年 □月	□□□

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤続年数	摘要
37	教諭	田中 絢子	高等部	□□□	□年 □月	□□□
38	教諭	後藤 明日美	高等部	□□□	□年 □月	□□□
39	教諭	鶴見 唯	小学部	□□□	□年 □月	□□□
40	教諭	加藤 公彦	小学部	□□□	□年 □月	□□□
41	教諭	近藤 直人	高等部	□□□	□年 □月	□□□
42	教諭	北野谷 冬馬	高等部	□□□	□年 □月	□□□
43	教諭	山本 絢香	小学部	□□□	□年 □月	□□□
44	教諭	早川 桂	中学部	□□□	□年 □月	□□□
45	教諭	西村 謙一	高等部	□□□	□年 □月	□□□
46	教諭	東 静香	高等部	□□□	□年 □月	□□□
47	教諭	太田 紗弥佳	中学部	□□□	□年 □月	□□□
48	教諭	名波 未来	小学部	□□□	□年 □月	□□□
49	教諭	富部 尚志	小学部	□□□	□年 □月	□□□
50	教諭	前田 綾音	小学部	□□□	□年 □月	□□□
51	教諭	中川 友実	高等部	□□□	□年 □月	□□□
52	教諭	飯塚 友菜	小学部	□□□	□年 □月	□□□
53	教諭	藤谷 里香	高等部	□□□	□年 □月	□□□
54	教諭	栗田 麻実	小学部	□□□	□年 □月	□□□
55	教諭	石田 絵理	小学部	□□□	□年 □月	□□□
56	教諭	長谷川 隼也	小学部	□□□	□年 □月	□□□
57	教諭	吉田 紫歩	高等部	□□□	□年 □月	□□□
58	教諭	藤本 真介	小学部	□□□	□年 □月	□□□
59	教諭	高橋 ちひろ	中学部	□□□	□年 □月	□□□
60	教諭	朝倉 千景	小学部	□□□	□年 □月	□□□
61	教諭	河合 瑞貴	高等部	□□□	□年 □月	□□□
62	教諭	中村 廉	中学部	□□□	□年 □月	□□□
63	教諭	松澤 賢	高等部	□□□	□年 □月	□□□
64	教諭	二俣 皓亮	小学部	□□□	□年 □月	□□□
65	教諭	齋藤 令名	中学部	□□□	□年 □月	□□□
66	教諭	玉村 羽純	小学部	□□□	□年 □月	□□□
67	教諭	高塚 友美	小学部	□□□	□年 □月	□□□
68	教諭	高林 郁夫	中学部	□□□	□年 □月	□□□
69	教諭	小杉 詩歩	小学部	□□□	□年 □月	□□□
70	教諭	栗原 由佳	中学部	□□□	□年 □月	□□□
71	教諭	白井 雄大	高等部	□□□	□年 □月	□□□
72	教諭	伊藤 隆太	高等部	□□□	□年 □月	□□□
73	教諭	河嶋 佑衣	小学部	□□□	□年 □月	□□□
74	教諭	吉田 亜優	中学部	□□□	□年 □月	□□□
75	教諭	川隅 堇	高等部	□□□	□年 □月	□□□

整理 番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤続年数	摘 要
76	教諭	中村 美希	小学部	□□□	□年 □月	□□□
77	教諭	吉山 優芽菜	小学部	□□□	□年 □月	□□□
78	教諭	守田 亮介	高等部	□□□	□年 □月	□□□
79	教諭	鈴木 梨那	小学部	□□□	□年 □月	□□□
80	教諭	小椋 拓実	小学部	□□□	□年 □月	□□□
81	教諭	青木 正美	小学部	□□□	□年 □月	□□□
82	教諭	小林 英里香	高等部	□□□	□年 □月	□□□
83	教諭	村井 皓紀	中学部	□□□	□年 □月	□□□
84	教諭	竹原 遼加	中学部	□□□	□年 □月	□□□
85	教諭	松本 祐輔	高等部	□□□	□年 □月	□□□
86	教諭	太田 知秀	小学部	□□□	□年 □月	□□□
87	教諭	市原 摩弥	小学部	□□□	□年 □月	□□□
88	教諭	鈴木 開斗	高等部	□□□	□年 □月	□□□
89	教諭	高久 奈々子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
90	教諭	伊藤 果生	中学部	□□□	□年 □月	□□□
91	教諭	相羽 翔太	小学部	□□□	□年 □月	□□□
92	教諭	菅 実紀	小学部	□□□	□年 □月	□□□
93	教諭	朝田 優花	小学部	□□□	□年 □月	□□□
94	教諭	鈴木 沙祐実	小学部	□□□	□年 □月	□□□
95	教諭	西谷 夢宮	小学部	□□□	□年 □月	□□□
96	教諭	山内 理子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
97	教諭	筒井 美帆	高等部	□□□	□年 □月	□□□
98	養護教諭	砂川 蘭人	養 護	□□□	□年 □月	□□□
99	養護教諭	齋藤 未結	養 護	□□□	□年 □月	□□□
100	栄養教諭	菅沼 純子	給 食	□□□	□年 □月	□□□
101	主任	金子 友二	会 計	□□□	□年 □月	□□□
102	主任	岡田 早織	庶 務	□□□	□年 □月	□□□
103	主任	佐久間 夏美	管 財	□□□	□年 □月	□□□
平均年数					2年 10月	

□□□□

職 員 調

臨時・非常勤職員

(令和7年10月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤続年数	摘 要
1	教諭(任)	古田 八重子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
2	教諭(任)	樋口 力	小学部	□□□	□年 □月	□□□
3	教諭(任)	蓮池 和恵	小学部	□□□	□年 □月	□□□
4	教諭(任)	松本 諭始	小学部	□□□	□年 □月	□□□
5	教諭(任)	時田 笑里	小学部	□□□	□年 □月	□□□
6	教諭(任)	金子 達哉	小学部	□□□	□年 □月	□□□
7	教諭(任)	高木 新太	小学部	□□□	□年 □月	□□□
8	教諭(任)	鈴木 貴大	小学部	□□□	□年 □月	□□□
9	教諭(任)	石塚 達也	高等部	□□□	□年 □月	□□□
10	教諭(任)	中原 萌	高等部	□□□	□年 □月	□□□
11	教諭(臨)	溝江 亜希	小学部	□□□	□年 □月	□□□
12	教諭(臨)	川合 真由子	小学部	□□□	□年 □月	□□□
13	教諭(臨)	澤田 成美	中学部	□□□	□年 □月	□□□
14	教諭(臨)	倉田 朋歌	小学部	□□□	□年 □月	□□□
15	教諭(臨)	柄澤 利恵	小学部	□□□	□年 □月	□□□
16	教諭(臨)	野澤 徹哉	中学部	□□□	□年 □月	□□□
17	教諭(臨)	曾根 克仁	中学部	□□□	□年 □月	□□□
18	医療的ケア看護職員	山崎 里依子	看 護	□□□	□年 □月	□□□
19	医療的ケア看護職員	吉國 香苗	看 護	□□□	□年 □月	□□□
20	実習支援指導員	政本 清美	実習支援	□□□	□年 □月	□□□
21	非常勤嘱託員	小林 八重子	実習支援	□□□	□年 □月	
22	非常勤嘱託員	丸井 菜央	実習支援	□□□	□年 □月	
23	非常勤嘱託員	増井 文音	事務補助	□□□	□年 □月	
24	非常勤嘱託員	宇津美 歩	事務補助	□□□	□年 □月	
25	非常勤労務職員	長谷 元博	用 務	□□□	□年 □月	
26	非常勤労務職員	栗田 一一	用 務	□□□	□年 □月	
27	非常勤労務職員	岩崎 和久	バス介助	□□□	□年 □月	
28	非常勤労務職員	山下 すゞ奈	バス介助	□□□	□年 □月	
29	非常勤労務職員	藤田 千鳥	バス介助	□□□	□年 □月	
30	非常勤労務職員	本田 進	バス介助	□□□	□年 □月	
31	非常勤労務職員	赤谷 栄子	バス介助	□□□	□年 □月	
32	非常勤労務職員	齊藤 浩子	バス介助	□□□	□年 □月	
33	非常勤講師	鈴木 郁代	中学部	□□□	□年 □月	□□□
34	非常勤講師	澤口 克実	中学部	□□□	□年 □月	□□□
35	非常勤講師	原田 悦子	社会人活用	□□□	□年 □月	
36	非常勤講師	古澤 知世	社会人活用	□□□	□年 □月	
37	学校医	山田 克己	内 科	□□□	□年 □月	□□□
38	学校医	西村 香澄	眼 科	□□□	□年 □月	□□□
39	学校医	今井 篤志	耳鼻科	□□□	□年 □月	□□□
40	学校医	牛田 健二郎	歯 科	□□□	□年 □月	□□□
41	学校医	太田 千恵	歯 科	□□□	□年 □月	□□□
42	学校薬剤師	牧田 道明	薬剤師	□□□	□年 □月	□□□
43	健康管理医	名倉 康雄	産業医	□□□	□年 □月	□□□

□□□□

職員の年齢調

(令和7年10月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	21人	
30歳以上40歳未満	38人	
40歳以上50歳未満	16人	
50歳以上56歳未満	13人	
56歳以上61歳未満	12人	
61歳以上	3人	暫定再任用職員 2人
計	103人	平均年齢 40.2歳

□□□□

健康 管 理

1 令和6年度受診状況

区分	内 容
受 診 状 況	受診者数 104 人
	受診者数 104 人
受 診 率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健康管理区分			人数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0 人
B1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0 人
B2		要経過観察	0 人
C1	勤務をほぼ正常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0 人
C2		要経過観察	0 人
D1	平常の勤務で良い。	要 治 療	24 人 (24)
D2		要経過観察	20 人 (20)
D3		医 療 不 要	56 人 (56)
区 分 者 計			100 人 (100)
未 区 分 者 数			3 人 (3)
合 計			103 人 (103)

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア □□□□ 人
 イ □□□□ □ 人
 ウ □□□□ 人
 エ □□□□ 人